

楽しく体験!陸・海・空のテクノロジーワールド

カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

船舶、鉄道車両、航空機、モーターサイクル…神戸に生まれ、日本に、そして世界に最新のテクノロジーを送り出す川崎重工グループ。陸・海・空の各分野で活躍する、そのテクノロジーの歴史、現在、そして未来を、ぜひ、カワサキワールドで感じてみてください。

ものづくりに触れよう!

館内にある「ものづくりシアター」では、船舶・新幹線車両の製造工程の様子を3画面のモニターで紹介しています。迫力ある画像をご覧ください。迫力ある画像をご覧ください。

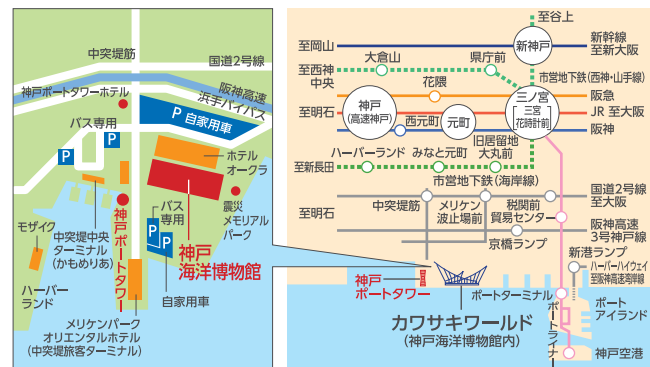


所在地 〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号
開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館) 年末年始(12月29日から1月3日)
お問い合わせ TEL:078-327-5401 FAX:078-327-5402
<http://www.khi.co.jp/kawasakiworld/>

■神戸海洋博物館入館料 大人 500円 小人(小中学生) 250円

※入館料には、各種割引があります。※カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

交通案内



- 飛行機で
「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で
「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で
市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分
神戸高速(阪急・山陽)「花隈駅」から徒歩約15分
- シティループで
「地下鉄三宮駅前(南行)」乗車約15分
「中突堤(ポータータワー前)」下車徒歩1分
- 車・タクシーで
JR・阪神・阪急「三宮駅」から約10分
JR・阪神「元町駅」から約5分
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分
ハーバーハイウェイ「新港ランプ」から約5分
※周辺には駐車場(有料)があります。

東日本大震災について

東日本大震災により深刻な被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。2013年3月、当社は被災した宮城県松島町沿岸部の漁業の復興支援と緊急時の備えとして、ジェットスキー®[STX-15F]1艇を寄贈しました。今後も被災地の支援を継続するとともに、一日も早い復興を心より祈念いたします。



ジェットスキー®の寄贈(左:当社 総務課長、右:松島町 危機管理監)

Business Report

第190期 通期

平成24年4月1日→平成25年3月31日

Top message

株主の皆様へ

Business plan

中期経営計画
(2013年度～2015年度)

Product introduction

Ninja 250
卓越した運動能力を、洗練のスタイルに。

Factory tour

工場見学会のご案内(明石工場)



切り取ってご利用ください

カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

株主様ご招待券(3名様無料)

2014年6月30日まで有効



この報告書は環境に配慮し、植物油インキを使用しています。



この報告書は見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

川崎重工業株式会社
TEL:078-371-9533(総務部株式担当)

川崎重工業株式会社
証券コード:7012

Kawasaki
Powering your potential

株主の皆様へ



本年6月26日に開催されました第190期定時株主総会において、株主の皆様からのご承認を賜り、同株主総会後の取締役会において代表取締役社長に選任されました村山 滋でございます。

社長就任のご挨拶を申しあげる前に、株主の皆様へご報告とお詫びがでございます。

既に報道などによりご高承のことと存じますが、当社取締役会は、本年6月13日開催の臨時取締役会において、2名の代表取締役及び役付取締役としての地位と、1名の取締役についての役付取締役としての地位を、それぞれ解職することを決議いたしました。

また、同日の取締役会では、三井造船株式会社殿との経営統合交渉の打ち切りと、経営体制の刷新も正式に決議され、私を社長とする新体制が発足いたしました。

このような事態に至りましたのは、当該3名が、他の多数の取締役の意向に反した業務執行を強行しようとするなど取締役会を軽視した行動などがあったため、コーポレート・ガバナンス及びコンプライアンスの見地より、取締役会として当社の経営の中枢を担う者として不適格といわざるを得ないと判断したためです。

今般の一連の当社機関決定の結果、株主の皆様にご多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことにつき、心よりお詫び申しあげるとともに、今後とも当社グループの経営を間断なく進めてまいりますので、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

【当社をとりまく経営環境】

世界経済は、中国経済の成長鈍化や、欧州経済における債務国問題の再燃などの懸念材料もありますが、米国経済復調の期待や新興国におけるインフラ需要の底堅さもみられることから、長期的には緩やかに成長していくと考えております。また、国内経済についても、昨年末の政権交代以降、東日本大震災後の本格的な復興需要に加え、政府のデフレ脱却に向けた取り組みや円高の是正などによる成長期待が高まり、持ち直しの兆しがみえつつあります。

当社グループの売上に対する海外比率も既に50%を超えていることから、国内・国外問わずこうした外部環境の変化を注視しつつ、柔軟かつ戦略的に経営の舵取りを行っていく必要があると考えています。

【「中計2010」(2010年度～2012年度)の成果と課題】

2008年のリーマンショックを契機に策定した中期経営計画「中計2010」が昨年度に終了しましたので、成果と課題について総括をいたします。

「中計2010」では、前提レートを上回る円高が定着し、当社収益の圧迫要因となりましたが、グループ全体で収益改善対策や中国をはじめとする新興国需要の取り込みなどに努力してきた結果、2010年度、2011年度と2期連続で当初計画を上回る業績を確保し、中計目標数値を1年前倒しで達成することができました。一方、中計最終年度となる2012年度は、全事業部門での黒字化など評価できる面はあるものの、円高やグローバル市場



目標

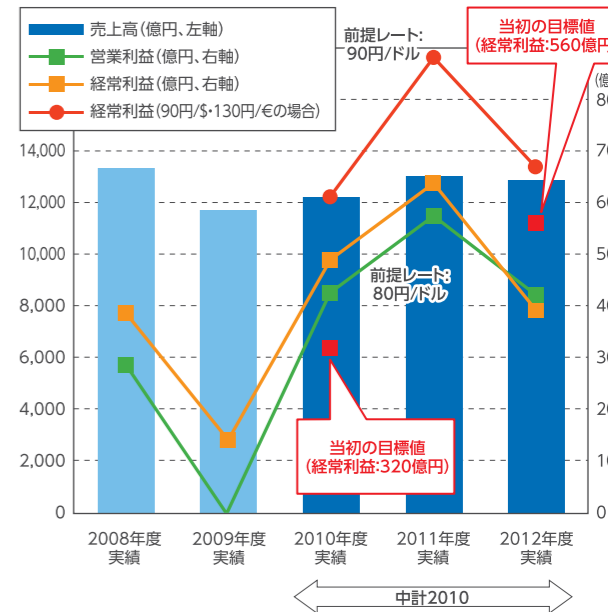
- 成長軌道への復帰
- 将来の成長に向けた基盤の整備

成果

- 中計目標を1年前倒しで達成

課題

- 為替変動に強い、より競争力のある事業・ビジネスモデルの創出
- 中国以外の新興国成長市場への展開加速



の競争激化が続くなかで中国経済の減速が影響し、当初の経営目標は未達に終わりました。

これは、為替変動に強い、より競争力のある事業・ビジネスモデルの創出や新たな成長市場への展開が、こうした環境の変化に追いつかなかったことによるものであり、早急に対処してまいります。

【「中計2013」(2013年度～2015年度)の策定】

今回新たに策定した中期経営計画「中計2013」では、当社グループの持続的成長を維持していくとともに、「Kawasaki 事業ビジョン 2020」の実現に向けた道筋をより具体化するための取り組みを定めています。

「中計2013」における2015年度のグループ目標数値は、売上高1兆6,000億円、営業利益900億円、経常利益850億円、ROIC(投下資本利益率)11%としています。これらの目標数値は各事業部門で定めた目標をベースに策定しており、今回発足した経営体制においても方針を変えず実行してまいります。また、企業価値のさらなる向上を目指し、質主量従を前提に成長性や効率性を重視した様々な施策も追求していく所存です。

本経営計画の最終年度となる2015年度は、2010年に策定した「Kawasaki 事業ビジョン 2020」の折り返し地点となるため、目標の達成がビジョン実現の成否を左右すると考え、当社グループの総力をあげて取り組んでいきたいと考えています。

【CSRの取り組み】

川崎重工グループのグループミッションは、「世界の人の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」です。これに、CSRという観点からその時代や状況に応じた目標を設定し、グループミッションを継続的により高いレベルで実現していくことを目指しています。

CSR全般では、5つのテーマを設け、それぞれのテーマごとに「目指す姿」を定めて取り組むほか、有識者ダイアログなどの開催を通じて社外の意見を積極的に取り入れるなど、社外評価の向上に努めています。また、社内においても、企業倫理に関する規則を整備し、階層別教育の実施や各種ガイドブックの配布などを通じて、遵守すべき各種法令についての周知徹底を図っています。

当社グループは、こうした不断の取り組みとともに、経営の透明性・客観性を高め、経営監督機能を一層強化すべく、当社と利害関係の無い社外監査役を含めた監査役による経営監視機能に加え、今般、新たに社外取締役を設置いたしました。

今後もCSRを重視し、コンプライアンスの徹底及びコーポレート・ガバナンス体制の一層の充実に取り組んでまいります。

【株主の皆様へ】

株主の皆様には、今般の急な経営体制の変更に伴い、多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことにつき、重ねてお詫び申し上げます。

CSRの5つのテーマ

- | | | |
|---|-----------------------------|--------|
| 1 | 総合技術力で未来をひらく
価値を創り出します | 事業 |
| 2 | 社会の信頼に応えるため、
いつも誠実に行動します | マネジメント |
| 3 | ずっと働きたい職場を
みんなで作ります | 従業員 |
| 4 | 「地球が微笑むものづくり」を
追い求めます | 環境 |
| 5 | 社会と未来につながる
貢献の輪を広げます | 社会貢献 |

私を筆頭に今回新たにご選任いただきました者も含め、役員、従業員一丸となって、信頼の回復と企業価値の向上のため邁進していくことをお約束し、社長就任のご挨拶と代えさせていただきますので、今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2013年7月

むらやま しげる
取締役社長 村山 滋

「新たな経営体制のもと、
当社グループの総力をあげて
「中計2013」の達成に
取り組んでまいります。」



中期経営計画 (2013年度～2015年度)

川崎重工グループは、2012年度までの事業環境の変化や自らの足取りを振り返るとともに、最終年度となる2015年度が2010年に策定した「Kawasaki 事業ビジョン 2020」に向けた折り返し地点に位置することを意識し、2013年度～2015年度を期間とする新中期経営計画「中計2013」を策定しました。

今回の中計期間では、前中計期間に蒔いた将来のための種を着実に成長させることに加えて、さらなる将来に向けた基盤整備や、事業環境の変化に柔軟に対応できる経営体質の構築

に取り組むことで、「Kawasaki 事業ビジョン 2020」実現を確実なものとし、持続的に成長する企業へと脱皮することを目指してまいります。

なお、「Kawasaki 事業ビジョン 2020」や、前中期経営計画「中計2010」の総括、「中計2013」の事業部門別の計画などの詳細については、当社ホームページ (URL: <http://www.khi.co.jp/ir/library/plan/index.html>) をご覧ください。



1. 重点施策

事業基盤の拡大・将来収益基盤の整備・強固な経営体質の構築に取り組み、持続的成長を目指します。

■ 事業基盤の拡大

- ①ソリューションの提供
- ②既存事業の領域拡大
- ③成長市場に向けたグローバル展開の加速
- ④新製品・新事業の早期事業化
- ⑤既存事業の競争力強化

■ 将来収益基盤の整備

- ①研究開発の推進と設備投資の継続
- ②知的資産共有活動の推進とグローバル人材の育成強化等

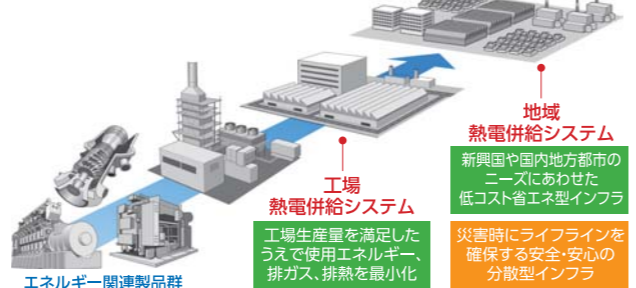
■ 強固な経営体質の構築

- ①財務体質の強化
- ②共通業務の効率化推進

■ ソリューションの提供例

当社の強いエネルギー関連製品群を主体に、最適なシステムソリューションを提供

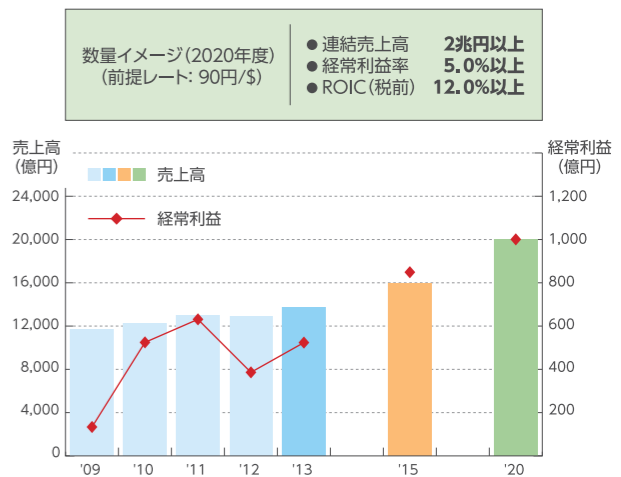
～エネルギーシステムソリューションの事例～



2. 数量目標

■ 連結数量計画

	12年度 (実績)	13年度 (見通し)	15年度 (目標)
売上高	12,888	13,800	16,000
営業利益 (率)	420 (3.3%)	600 (4.3%)	900 (5.6%)
経常利益 (率)	393 (3.0%)	530 (3.8%)	850 (5.3%)
ROIC (税前)	6.1%	7.4%	11.0%
NET D/Eレシオ	131.9%	130%	110%
自己資本比率	23.0%	22.1%	23.4%
計画前提為替レート	—	95円/\$	95円/\$



■ セグメント別の数量計画

	売上高			営業利益・営業利益率					
	12年度 (実績)	13年度 (見通し)	15年度 (目標)	12年度 (実績)		13年度 (見通し)		15年度 (目標)	
船舶海洋	903	700	1,350	41	4.5%	0	0.0%	60	4.4%
車両	1,299	1,550	1,800	22	1.7%	60	3.9%	130	7.2%
航空宇宙	2,391	2,900	2,700	148	6.2%	190	6.6%	200	7.4%
ガスタービン・機械	2,070	1,850	2,500	70	3.4%	110	5.9%	130	5.2%
プラント・環境	1,158	1,150	1,400	97	8.4%	70	6.1%	80	5.7%
モーターサイクル&エンジン	2,518	2,900	3,000	23	0.9%	100	3.4%	150	5.0%
精密機械	1,304	1,400	1,900	84	6.4%	140	10.0%	220	11.6%
その他	1,242	1,350	1,350	-68	-5.5%	-70	-5.2%	-70	-5.2%
合計	12,888	13,800	16,000	420	3.3%	600	4.3%	900	5.6%

前提為替レート 95円/\$

3. 経営資源投入計画

	2010～12年度 平均 (実績)	2013～15年度 (計画)
設備投資 (発注ベース)	710/年	700/年
研究開発費	400/年	460/年

- 設備投資
 - ・既存設備の有効活用による新たな投資の抑制
 - ・必要な将来事業基盤の整備に向けた確実な投資
- 研究開発費
 - ・システムソリューションを柱とした新製品・新事業の開発
 - ・コンカレントを追及した高付加価値製品の開発
 - ・将来を見据えた基盤技術、コア技術の開発



Ninja 250

卓越した運動能力を、洗練のスタイルに。

— Ninjaが再び風を切る —

川崎重工のモーターサイクルにはいくつかブランドがありますが、「Ninja」シリーズは、30年前に初登場して以来、多くのモーターサイクルファンに愛され続けてきました。ここでは、当社が世界戦略車として投入した「Ninja」シリーズの最新車種をご紹介します。

「Kawasakiの『走り』」を世界中の人々に

2012年11月、川崎重工から「Ninja」シリーズの最新モデル「Ninja 250」(*)が登場しました(国・地域によって異なる免許制度などにあわせて「Ninja 300」も発売)。同車種は、2008年に世界戦略車として登場した「Ninja 250R」の後継にあたります。「Ninja」ブランドは、1984年に登場した「Ninja/GPz900R」以来、当社の代表的なブランドのひとつとして現在に至るまでファンに愛され続けています。

「Ninja 250R」は、大型モデル中心だった「Ninja」をより多くの方々に楽しんでもらうため、「いつ、どこで、どんなライダーが乗ってもモーターサイクルの楽しさを感じることが出来る」をコンセプトに開発したものです。

※ 車名の数値は一般的に排気量を表します。
例:Ninja 250⇒約250cc、ZX-14R⇒約1,400cc

クラスを超越した「世界戦略車」の後継

「Ninja 250R」は登場後短期間のうちに世界各国で好評を博しました。とりわけ、欧米では女性ライダー、日本では初心者や、かつてモーターサイクルを愛用していた年齢層の方々からも支持をいただくことに成功しました。

「Ninja 250」は、そのようなコンセプトを受け継ぎつつ、高い環境性能を有するとともに、アグレッシブなデザイン、上質な造り込みにより、従来の250ccクラスを超えた仕上がりを追求しています。

当社が今後の有望な市場のひとつとみている東南アジア市場では、まだ大型車種(401cc以上)の市場は小さく、スクータータイプを除くと、レジャー向けの車種は250ccクラスが中心となっています。そのなかにおいて、「Ninja 250」は、世界戦略車として「Ninja」の名にふさわしい評価をいただいています。

Interview



「粋」の美意識に根ざし、デザインを細部にまで繊細に練り上げました

モーターサイクル&エンジンカンパニー
チーフ・リエゾン・オフィサー

木村 徹

「Ninja」の造形は、「粋」という日本の美学に根ざしています。「粋」という言葉は、五感の表現だけでなく知性も表すなど、幅広い意味で使われてきました。その例が江戸時代の着物の色や柄のこだわりで、人々は一味違う個性を求めて他との差異を楽しもうとしていました。色や柄の使い方には細心の注意が払われ、着こなす人の心の中に秘められた感動との調和を図り、新しいイメージを作り上げてきました。もちろん、伝統の様式を取り入れながら、その時代の最新の要素が表現されており、見る人の心も虜にしていたのです。

このような美意識をベースに、「Ninja」の持っている卓越した運動能力を表現するため、大胆な造形テーマを細部にまで、繊細に練り上げました。どこから見てもワクワク・ドキドキする躍動感は、「Ninja」が秘める力強さの表れです。最も力を注いだのが先端から後端までの流れる造形です。先進的な刺激を追求するとともに、「走る喜び・操る楽しさに溢れ、五感に訴えかける「カワサキらしさ」の伝統を表しています。



The History of “Kawasaki”

「Kawasaki」のブランドは、モーターサイクルの歴史に多くの足跡を遺してきました。このページでは、走る喜びを追い続ける川崎重工の一部をご紹介します。

「Z」と「Ninja」は、Kawasakiモーターサイクルの象徴的なブランドです。「Z」シリーズは、1972年に登場した「Z1」を起源とします。当時、レースモデルなどでのみ採用されていた高出力な4気筒エンジンを量産車に採用、その秀逸なデザインとともに、技術の粋を集めた「Z1」は、世界のモーターサイクルシーンに新たな幕開けをもたらしました。また、「Ninja」シリーズは、1984年に米国で発売された

「Ninja/GPz900R」が起源で、当時の同国における「忍者」ブームから名付けられたのがきっかけです。スリムでパワフルな水冷DOHC4気筒エンジン、エンジンと一体構成となった先進的なスチールパイプフレーム構造（ダイヤモンドフレーム）、そして空力特性に優れた独特のフェアリングなど、「Ninja/GPz900R」は無敵のパフォーマンスを発揮し、欧米諸国で大ヒットとなりました。

自由の象徴、“Z”



歴代の「Z」シリーズは、独自の外観と優れた性能で根強い人気を誇っています。「Z800」は初登場から40年を迎えた最新モデルとして、既成概念にとらわれない「Z」らしいデザインとなりました。



Z1 (1972年)

Z800 (2013年)

唯一無二、“Ninja”



「Ninja ZX-14R」は、1984年デビューの初代「Ninja/GPz900R」から続く伝統を受け継ぎ、「Kawasaki」のモーターサイクルにおける至上のフラッグシップモデルとして誕生しました。



GPz900R (1984年)

ZX-14R (2012年)



半世紀以上の歴史が育ててきたファンとの「絆」を大切にし、さらなる顧客満足を目指す

当社はこれまで、市場のニーズを的確に捉えた商品開発を行い、「Z1」、「Ninja/GPz900R」から最新のモデルまで、数々のモーターサイクルを世に送り出してきました。商品開発の理念として目指してきたのは、「Fun to Ride」（走る喜び、操る楽しさ）、「Ease of Riding」（乗りやすさ）、そして「高度な環境技術」です。

一方、「Kawasaki」はファンとの繋がりを大切に活動の世界中で展開しています。例えば、日本各地で開催される「カワサキ コーヒーブレイク ミーティング」。毎回千人ほどのライダーが集まる人気のイベントで、今年で16年目、第100回の開催を迎えました。日曜日の午前、コーヒー片手に見知らぬライダー同士がバイク談義に花を咲かせる、そんなイベントがツーリングの機会ともなり、モーターサイクルに乗る喜びをより深く知っていただくきっかけにもなっています。

そして本年2月、当社の企業博物館「カワサキワールド」（裏表紙参照）にて、「Z」シリーズ誕生40周年を記念した特別展「Zフェア」を開催、同館始まって以来の入場者数（1日あたり）を記録しました。

また、当社は世界中のライダーの安全と交通事故の撲滅を目指し、セーフティライディングを啓発する講習会や各種イベントを展開しています。

これからも「Kawasaki」は、いつの時代も変わらぬ理念のもと、お客様に一層ご満足いただけるよう、さまざまな活動を展開し続けてまいります。



Zフェアの様子：多くのお客様にご来場いただきました。

Kawasaki Brand

『Kawasaki』を世界の『プレミアムブランド』に

常務執行役員
モーターサイクル&エンジンカンパニー
プレジデント
紀山 滋彦



モーターサイクル&エンジンカンパニーは、リーマンショック後の先進国各国市場の縮小と長期間にわたる円高の影響で非常に厳しい事業環境下にありましたが、コストダウン推進による製品利益率の向上と固定費の大幅削減による損益分岐点引下げという事業構造改革、及び収益基盤の強化に取り組んでまいりました。

一方、この間もお客様に魅力的と感じていただける“強いモデル”の投入を継続し、その結果、強力なラインアップを揃えることができました。これまでの助走期間を経て、新たな発展に向けて攻めの段階に進んでまいります。

世界のモーターサイクル市場は「回復が遅れている先進国」と「拡大を続ける新興国」という構図で引き続き推移するものと予測しております。当カンパニーは、『走る喜び・操る楽しさに溢れ、五感に訴えかける「カワサキらしい製品」』を今後とも世界各国の市場に投入することにより、プレミアムブランドとしての地位を確立し、先進国事業の収益性の向上と新興国事業の一層の拡大を図ってまいります。

株主の皆様には、当カンパニーの事業につきまして、今後とも引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。



応募要項

■対象者

2013年3月31日現在、当社株式1,000株以上をご所有の株主様ご本人(ご同伴者様1名まで可)
※12歳未満の方のご見学には、必ず成人の方が同行してください。

■参加費

無料(但し、集合・解散場所(明石駅を予定)までの往復交通費は株主様のご負担とさせていただきます。また、昼食のご用意はしておりませんのでご了承ください。)

■締切日 2013年9月2日(月) [必着]

■ご応募前の確認事項

- ご応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。厳正な抽選のうえ、結果はご応募いただいた株主様全員に、2013年10月上旬までに郵送にてお知らせいたします。
- ご応募の際に、記載事項に漏れなどの不備がございます場合、無効とさせていただきます。
- ご応募により当社が取得する個人情報は、本工場見学会を実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。
- ご見学時は1時間程度(予定)の徒歩移動、バスの乗り降り及び階段の昇り降りがございますので、あらかじめご了承ください。
- ご見学時は写真・ビデオ撮影はお断りさせていただいておりますので、あらかじめご了承ください。
- 株主様と、ご記載されたご同伴者様のみ参加できます。なお、当日は別のご同伴者様がお越しいただいても、手続きの関係上、ご見学いただけませんのであらかじめご了承ください。
- 当日は集合・解散場所(明石駅を予定)の周辺には当社が用意している駐車場がございませんので、公共交通機関でお越しください。また、工場へは直接ご来場いただけませんので、ご注意ください。

■応募方法

参加を希望される日時を下表の申込番号(①～④)からひとつだけお選びいただき、下記のとおり郵便はがきに、本ページ右上の応募券を貼り付け、必要事項を記入のうえ、ご応募ください。(郵送料につきましては株主様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。)

申込番号	日程	時間
①	2013年11月21日(木)	8時15分より約3時間半(予定)
②	2013年11月21日(木)	13時15分より約3時間半(予定)
③	2013年11月22日(金)	8時15分より約3時間半(予定)
④	2013年11月22日(金)	13時15分より約3時間半(予定)

定員は各40名(同伴者を含みます。)

※株主番号掲載箇所
本紙と一緒に同封している「送付票」に株主番号が記載されています。



工場見学会
応募券
(明石工場)

▲株主番号(9桁)
Bご希望の申込番号
C株主様
①お名前(ふりがな)
②郵便番号
③ご住所
④性別
⑤年齢
⑥電話番号
Dご同伴者様(1名まで)
株主様の必要記載事項
(①～⑥)と同様に記載

郵便はがき

11688799

杉並南郵便局留
三井住友信託銀行 証券代行部
川崎重工業
工場見学会係

裏面

あて名面

お問い合わせ先
(工場見学会専用)
川崎重工業(株)株主名簿管理人
三井住友信託銀行(株)証券代行部
☎03-6743-3220
営業時間 9時～17時(土・日・祝日除く)



今回の工場見学会は明石工場です！



工場見学会は、株主の皆様当社への理解をより一層深めていただくことを目的に、今年の3月から実施しています。このたび、第2回目となる工場見学会を明石工場で開催いたしますので、本案内をご覧のうえ、この機会にぜひご応募ください。

見学場所 当工場はモーターサイクル、産業用ガスタービン、産業用ロボットなどさまざまな製品を製造しており、それぞれの高度な技術を有する複合工場です。この見学会では、各製品の製造工程をまとめてご見学いただけます。



全事業部門で黒字達成

当期における世界経済は、中国など新興国経済の減速もあって、全体としては緩やかな成長にとどまりました。今後も、欧州における債務国問題など不安定要素があるものの、米国経済の復調期待や新興国におけるインフラ需要の底堅さから、緩やかな成長が続くとみえています。

また、わが国経済は、世界経済の下振れ懸念などから不安定な状況が続きましたが、今後は政府の財政・金融政策や円高は正基調などから成長期待が高まっております。

このような経営環境のなか、当社グループは、売上高は前期並みとなったものの、全事業部門での黒字化を達成しました。来期(第191期)につきましては、売上高は1兆3,800億円、営業利益は600億円、経常利益は530億円、当期純利益は340億円を計画しております。

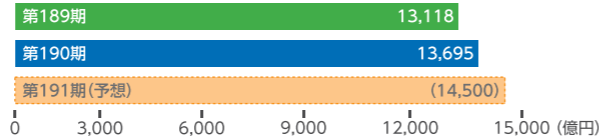
配当金につきましては、業績に応じた配当を安定的に継続することを基本方針としており、当期は1株あたり5円とし、来期も5円を計画しております。

決算ハイライト(連結)

■前期 / ■当期 / ■予想

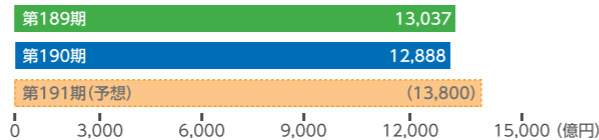
受注高 | 13,695億円
前年度より577億円増加

船舶海洋事業や車両事業などでの受注増が、精密機械事業や航空宇宙事業における減少をカバーし、全体としては増加となりました。



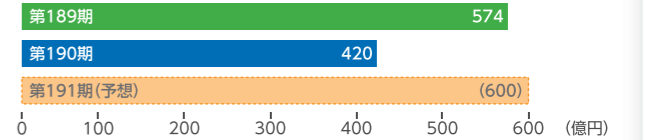
売上高 | 12,888億円
前年度より148億円減少

中国経済の減速の影響による精密機械事業の減収や船舶海洋事業における減収があったものの、航空宇宙事業などの増収がこれをカバーしました。



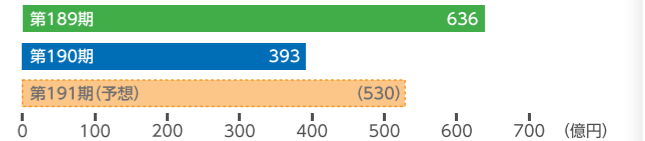
営業利益 | 420億円
前年度より154億円減少

航空宇宙事業が大幅増益となったものの、精密機械事業やプラント・環境事業における減益を補うまでに至りませんでした。



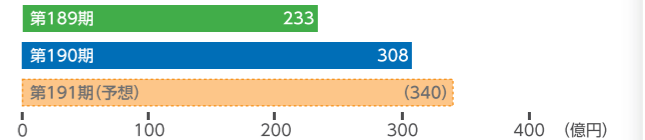
経常利益 | 393億円
前年度より242億円減少

営業利益の減少に加え、主として為替差損益の悪化により、減益となりました。



当期純利益 | 308億円
前年度より75億円増加

減損損失などがあった前期と比べて、増加となりました。



※1 業績予想などは、合理的と判断するデータに基づいて作成し、2013年4月25日に開示したものであり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績は予想と異なる可能性があります。
 ※2 連結営業利益の全社合計(420億円)と「セグメント別の業績」合計(497億円)が一致していません。これは、2010年度から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用したことにより、本社部門に係る費用の一部(80億円)を各事業部門に配分していないこと、及び億円未満の数字を切捨てていることによりです。

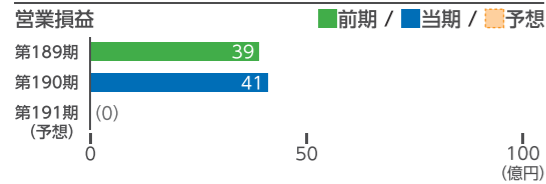
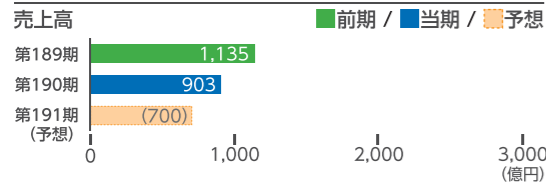
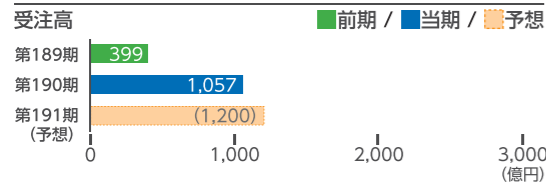


船舶海洋事業

売上減少があったものの前年度並みの利益を確保

売上高は、LNG船、LPG船といった液化ガス運搬船の建造量が増加した一方、ケーブサイズのばら積み船などの建造量が減少し、903億円と前年度を大幅に下回りました。

営業利益は、売上高の減少があったものの、コスト削減や円安の影響などにより、ほぼ前年度並みの41億円となりました。



LNG運搬船「エネルギーホライズン」 潜水艦「けんりゅう」

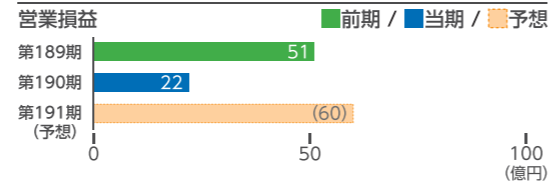
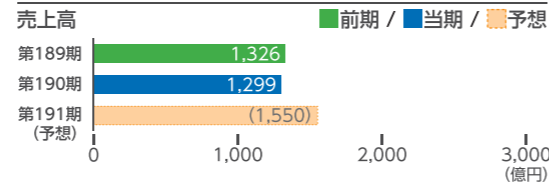
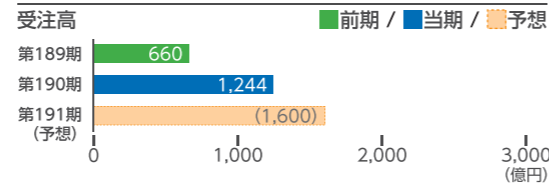


車両事業

海外案件の収益性の低下により減益

売上高は、JR各社向けの増加により国内向けの売上が増加したものの、海外向け売上が減少したことなどにより、ほぼ前年度並みの1,299億円となりました。

営業利益は、海外案件の収益性の低下により、前年度から29億円減少し22億円となりました。



ニューヨーク市交通局向け R188地下鉄電車 関西電力(株)向け 黒部峡谷鉄道用EDV形直流電気機関車

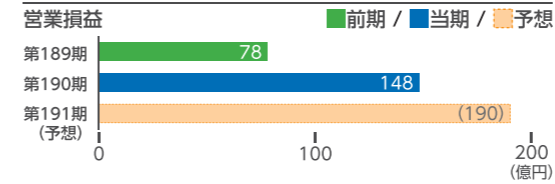
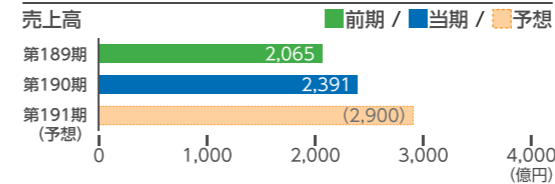
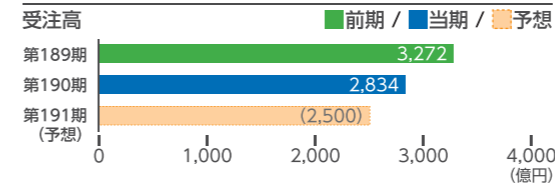


航空宇宙事業

防衛省向けの売上増加等で増収増益

売上高は、C-2輸送機などの防衛省向けが増加したことに加え、ボーイング社向け777・787分担製造品が増加したことなどにより、2,391億円と前年度を上回りました。

営業利益は、売上高の増加やコスト削減などにより、前年度から70億円増加し148億円となりました。



川崎式BK117C-2型ヘリコプタ P-1 固定翼哨戒機

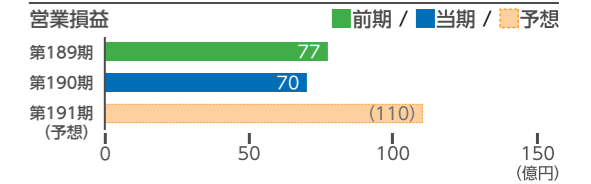
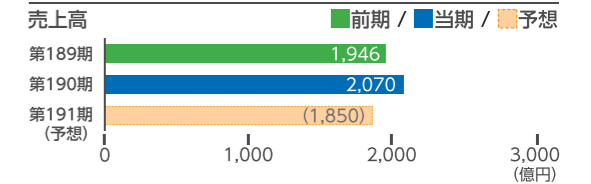
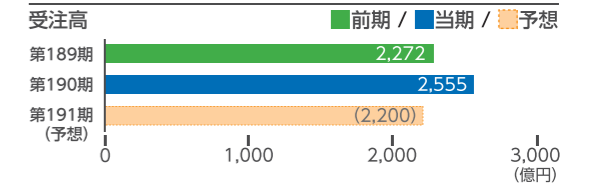


ガスタービン・機械事業

航空エンジン関連で増収も減益

売上高は、船用ディーゼル主機関などが減少したものの、航空機用エンジン分担製造品やガスエンジンなどの増加により、2,070億円と前年度を上回りました。

営業利益は、新規プロジェクトの開発費の償却などにより、前年度から7億円減少し70億円となりました。



(株)ダイセル向けL30AガスタービンパッケージPUC300D 日本テクノ(株)袖ヶ浦グリーンパワー向けガスエンジン発電設備

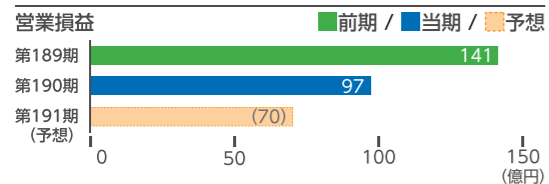
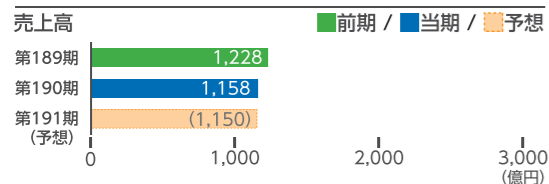
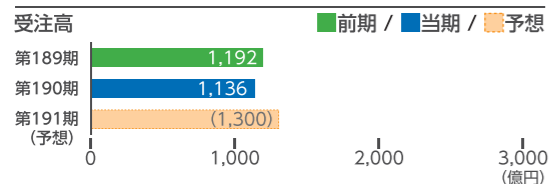
プラント・環境事業



海外向け大型案件の売上減少等で減収減益

売上高は、LNG貯槽案件が引き続き高水準で推移するとともに、搬送設備やごみ焼却プラントなどで増加したものの、海外向け大型案件が減少したことにより、1,158億円と前年度を下回りました。

営業利益は、売上高の減少及び利益率の低下により、前年度から43億円減少し97億円となりました。



トルクメニスタン向け肥料プラント
北海道ガス(株)石狩LNG基地向けLNGタンク

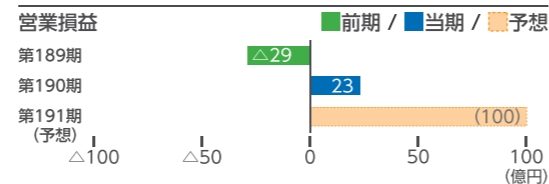
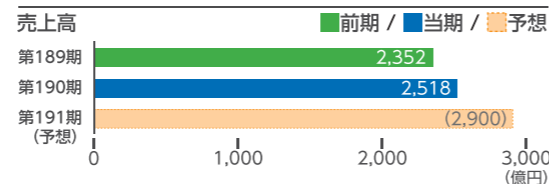
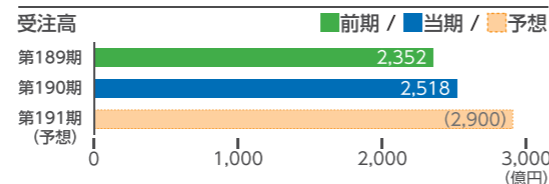
モーターサイクル&エンジン事業



新興国向けの売上増加等で大幅改善

売上高は、欧州向け二輪車販売が減少する一方、米国向けやインドネシアを中心とする新興国向け二輪車販売の増加などにより、2,518億円と前年度を上回りました。

営業利益は、売上高の増加及び収益性の向上などにより、前年度から53億円改善し23億円の営業利益となりました。



Ninja 250 / Ninja 300
Z800

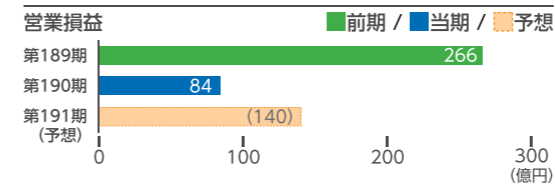
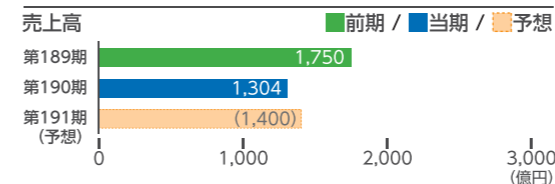
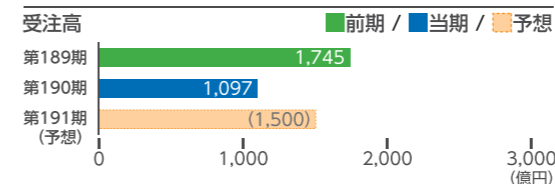
精密機械事業



建機市場向け油圧機器の売上減少等で減収減益

売上高は、中国向けを中心とする新興国建機市場向け油圧機器の減少などにより、1,304億円と前年度を大幅に下回りました。

営業利益は、売上高の減少に加え、過年度の設備投資などに伴う固定費の増加などにより、前年度から181億円減少し84億円となりました。



スポット溶接用ロボット[BX200L]
建設機械用新型油圧機器

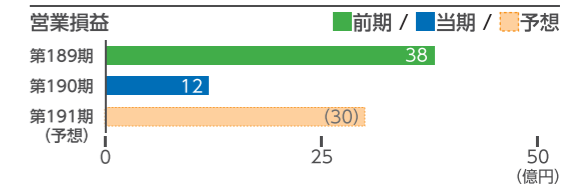
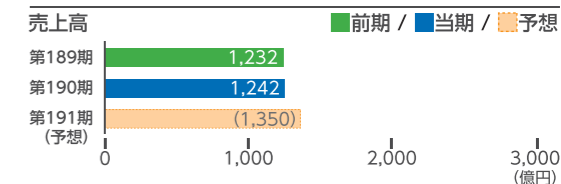
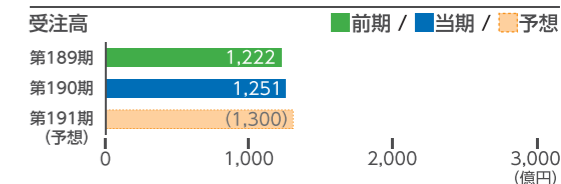
その他事業



(建設機械の製造・販売、ビル等の管理、商業など)

売上高は、1,242億円と前年度を上回りました。

営業利益は、前年度から25億円減少し12億円となりました。



カワサキホイールローダ[90Z7]
当社加古川寮・社宅

Point

Point 1 有形固定資産

有形固定資産とは、会社が長期にわたって使用する資産で、主に建物や設備、土地などの目に見えるものを指します。
当期については、航空宇宙事業やガスタービン・機械事業、プラント・環境事業などにおいて設備投資を行った結果、前期(第189期)から310億円増加しました。

Point 2 純資産

いわゆる「自己資本」のことを指し、銀行からの借入金など返済の義務を負う資金で構成される「他人資本」に対して、株主の皆様からの出資金(資本金)や、企業活動で得た利益のうち社内に留保している分(利益剰余金)などで構成されています。
純資産が増加すると、「自己資本比率」など企業の健全性を表す各指標が改善します。
当期については、利益剰余金の増加などにより、前期から339億円増加しました。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度末 平成25年3月31日現在	前連結会計年度末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	1,016,813	967,186
固定資産	449,476	394,953
有形固定資産	305,792	274,750
無形固定資産	19,446	18,786
投資その他の資産	124,236	101,416
資産合計	1,466,290	1,362,139
負債の部		
流動負債	782,540	696,002
固定負債	333,868	350,214
負債合計	1,116,409	1,046,216

純資産の部	株主資本	357,379	335,270
資本金	104,484	104,484	
資本剰余金	54,393	54,393	
利益剰余金	198,528	176,414	
自己株式	△27	△22	
その他の包括利益累計額	△19,139	△29,215	
その他有価証券 評価差額金	4,524	3,989	
繰延ヘッジ損益	△5,998	246	
為替換算調整勘定	△17,665	△33,451	
少数株主持分	11,641	9,868	
純資産合計	349,881	315,922	
負債純資産合計	1,466,290	1,362,139	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	前連結会計年度 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	28,101	84,737
投資活動によるキャッシュ・フロー	△81,160	△65,959
財務活動によるキャッシュ・フロー	57,671	△26,831
現金及び現金同等物の期末残高	36,971	33,245

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	前連結会計年度 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	1,288,881	1,303,778
売上原価	1,085,469	1,088,918
売上総利益	203,412	214,860
販売費及び一般管理費	161,349	157,375
営業利益	42,062	57,484
営業外収益	17,576	19,146
営業外費用	20,310	13,003
経常利益	39,328	63,627
特別利益	8,624	—
特別損失	1,800	14,921
税金等調整前当期純利益	46,152	48,706
法人税、住民税及び事業税	10,590	9,932
法人税等調整額	2,550	12,899
少数株主利益	2,147	2,551
当期純利益	30,864	23,323

連結株主資本等変動計算書(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで) (単位：百万円)

科目	株主 資本合計	その他の包括利益 累計額合計	少数 株主持分	純資産 合計
平成24年3月31日残高	335,270	△29,215	9,868	315,922
当連結会計年度中の変動額				
転換社債型新株予約権付社債の転換	—	—	—	—
剰余金の配当	△8,359	—	—	△8,359
当期純利益	30,864	—	—	30,864
自己株式の取得	△5	—	—	△5
自己株式の処分	0	—	—	0
連結子会社の会計期間変更に伴う増減額	△204	—	—	△204
持分法適用関連会社増加に伴う減少額	△185	—	—	△185
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)	—	10,076	1,772	11,848
当連結会計年度中の変動額合計	22,109	10,076	1,772	33,958
平成25年3月31日残高	357,379	△19,139	11,641	349,881

連結包括利益計算書

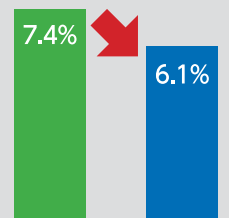
(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	前連結会計年度 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
少数株主損益調整前当期純利益	33,011	25,875
その他の包括利益	11,027	△1,305
その他有価証券評価差額金	541	106
繰延ヘッジ損益	△6,381	1,281
為替換算調整勘定	11,712	△2,925
持分法適用会社に対する 持分相当額	5,155	231
包括利益	44,039	24,569
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	40,940	22,227
少数株主に係る包括利益	3,099	2,341

Point

Point 3 投下資本利益率(ROIC)

目標とする経営指標は、投資家の皆様の期待に応える利益を稼得することを目的として、資本効率を測る指標である投下資本利益率(ROIC)を採用しています。



※ROIC=(税引前利益+支払利息)÷投下資本

会社概要・役員 株式の状況・大株主

会社概要 (2013年3月31日現在)

創立	1896(明治29)年10月15日
資本金	104,484,658,872円
従業員	15,067名
本社	(神戸)神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 (東京)東京都港区海岸1丁目14番5号

役員 (2013年6月26日現在)

取締役社長	村山 滋	執行役員	秋岡 稔
取締役副社長	松岡 京平 高田 廣		河野 行伸 中川 雅文
常務取締役	園田 誠 井城 讓治 井上 英二 金花 芳則 牧村 実 村上 彰男		山中 淳彦 河部 香 肥田 一雄 小河原 誠 中上 雄吾 小牧 博一
取締役	森田 嘉彦		中林 志郎
監査役	大串 辰義 村上 雄二 岡 道生 藤掛 伸之		久山 利之 富田 健司 阿部 元一 太田 和男
常務執行役員	衣斐 正宏 石川 主典 紀山 滋彦		前田 正美 岩崎 宏治 門田 浩次
執行役員	菅原 健史 田中 信介 橋本 芳純 芝原 貴文		橋本 康彦 渡辺 達也 大畑 健

株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数	3,360,000,000株
発行済株式総数	1,671,892,659株
株主総数	146,087名

大株主 (2013年3月31日現在)

株主名	所有株式数	比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	85,654,000株	5.12%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	80,797,000株	4.83%
日本生命保険相互会社	57,516,659株	3.44%
株式会社みずほ銀行	57,443,650株	3.43%
JFEスチール株式会社	56,174,400株	3.35%
川崎重工共栄会	35,916,192株	2.14%
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	34,361,700株	2.05%
川崎重工業従業員持株会	33,981,217株	2.03%
東京海上日動火災保険株式会社	27,838,589株	1.66%
株式会社三井住友銀行	26,828,453株	1.60%

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人及び
特別口座の管理機関
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所
〒540-8639
大阪市中央区北浜4丁目5番33号
TEL:0120-782-031(フリーダイヤル)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

■ご案内

○支払通知書のご送付について
2008年度の租税特別措置法の改正により、2009年1月以降にお支払いする配当金について、支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」をご送付しております。第187期(2009年度)の期末配当金より、配当金のお受け取り方法に従い、以下の方法でそれぞれご通知しております。

1. 配当金額収証(ゆうちょ銀行の窓口)でお受け取りの場合
支払通知書を兼ねる配当金計算書をお支払いの都度、ご送付いたします。本計算書は、確定申告の添付書類としてご使用いただけますので、大切に保管してください。
2. 金融機関への振込みの場合
これまでと同様、支払通知書を兼ねる配当金計算書をお支払いの都度、ご送付いたします。本計算書は、確定申告の添付書類としてご使用いただけますので、大切に保管してください。
3. 「株式数比例配分方式」により証券会社等でお受け取りの場合
2010年より、源泉徴収税額の計算は、株主様が株式を預けている証券会社等にて行われます。このため、確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引のある証券会社等へご確認ください。

○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
TEL:0120-782-031(土・日・祝日を除く 午前9時~午後5時)

川崎重工グループの タグラインを制定

川崎重工は、「Kawasaki 事業ビジョン 2020」の実現とブランド価値向上・拡大を目指して、グループタグラインを制定しました。新しいタグラインを加えたブランドコミュニケーションを積極的に展開してまいります。

 **Kawasaki**
Powering your potential

グループミッションの実現に向けて、「お客様と社会の可能性を切り拓く力となる」という想いが込められています。

【英】powering 力を与える、動力を与える
【英】your お客様、社会、従業員
【英】potential 可能性、潜在力、発展性

今回の表紙

今回は、07-10ページでご紹介した「Ninja 250(Ninja 300)」の写真を掲載しました。表紙では、「Ninja」の個性を打ち出した外観に加え、さまざまな改良により先代をしのぐ運動性能を手に入れた「Ninja 250(Ninja 300)」の疾走感を表現しました。



切り取ってご利用ください

川崎重工業株式会社

ご来場の際は本券を切り離してご持参ください。

ご利用日 年 月 日
ご利用内訳 大人 名 小人 名